

憲法擁護  
核兵器廃絶  
狭山闘争勝利

# 東京平和運動センター ニュース

NEWS

■ 2014年 9月号 月1回発行 132号

■ 発行所：東京都港区芝浦3丁目2番22田町交通ビル  
東京平和運動センター

■ 発行人：桐田 達也 TEL・FAX 03-5443-4110



高校生1万人署名と高校生平和大使派遣を呼びかける〈原水禁長崎大会〉

| 目                  | 次 |
|--------------------|---|
| 議長就任あいさつ           | 2 |
| 辺野古新基地建設反対闘争に参加して  | 3 |
| 被爆69周年原水禁世界大会      | 4 |
| 三多摩ヒロシマ子ども派遣団に参加して | 5 |
| 活動日誌・当面の日程         | 6 |
| 10.17 戦争をゆるさない東京集会 | 7 |

## 東京平和運動センター議長に 佐藤光夫氏（私鉄東京副議長） 畑前議長が退任

### 議長就任あいさつ

平素より、東京平和運動センターの運営にご理解と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。先般、9月17日に開催された第67回常任幹事会におい



て、組織事情により畑前議長から議長を引き継ぐことになりました私鉄東京連絡会で副議長を仰せつかっております、東急バス労働組合の佐藤光夫と申します。

第2次安倍政権発足後、右傾化が加速する中、平和の担い手である平和運動センターの役割は大変重要な位置づけにあると思います。その一翼を担う東京平和運動センター議長という重責に就くにあたり、自身の力不足は否めず、戸惑いを隠せませんが、構成組織の皆様と「戦争のできる国には絶対にしてはならない」という強い信念を改めて共有し、恒久平和を目指し組織運営に努めてまいりますので、前任者同様、ご理解と御協力をお願い申し上げます。

情勢を見ますと、東日本大震災から3年半が経過しましたが、未だ多くの方々が仮設住宅などへの避難を余儀なくされており、いつ帰れるか分からない実態のなか、国が第一義にすべき復興が滞っている現状を見ると、危機感のなさに憤りを隠せません。

このように被災地では、原発事故の影響により復旧・復興が思うように進まない状況であるにもかかわらず、原子力規制委員会は9月10日に九州電力川内原発1、2号機について「新規制基準に適合している」と結論づけ、原子炉の設計変更を許可しましたが、これは、原子力規制委員会の審査に通った原発は安全という流れを政府が強引に作りあげているとしか思えません。更に、避難計画が規制委員会の審査対象となっていないことを

みると、住民の命をないがしろにするばかりか、原発事故の教訓が全く生かされておらず、言語道断です。私たちは原発事故で「核と人類は共存できない」ことを目の当たりにしました。未だ原発事故収束の目途が立たないことから、絶対に原発を再稼働させないという強い決意を持って取り組むべきだと思います。このように、民意をないがしろにした安倍政権ですが、この間、強行採決により特定秘密保護法を制定させ、4月には防衛装備移転三原則を閣議決定し、7月1日には集団的自衛権の行使容認が憲法解釈を変え閣議決定されてしまいました。これら一内閣の判断によって、戦後日本の安全保障政策が大転換する道筋が作られてしまい、立憲政体が崩れ始めていると言っても過言ではないと思います。また、8月には反対世論を踏みにじり、辺野古新基地建設にむけてのボーリング調査を強行しました。私たちは、こうした民意を無視した政権運営に警鐘を鳴らすべきだと思います。

今後は、自衛隊法改正などの法整備を進め「戦争のできる国」づくりが加速することが危惧されますが、戦争という過ちを風化させることなく、悲劇を二度と繰り返さないという強い信念をもち、後世に付けを回さないためにも、運動強化に努めてまいりますので、更なるご理解と御協力をお願い申し上げます。共に頑張りましょう。

### 第67回東京平和運動センター常任幹事会

(2014.9.17 東交会議室)

- 1 戦争をさせない1000人委員会の取り組み  
10.17 東京集会の開催（日比谷公会堂）
- 2 さようなら原発1000万人行動について  
9.23 集会への参加
- 3 狭山事件再審の取り組み  
10.31 市民集会参加  
狭山東京実行委員会総会（12.19）
- 4 高校生平和大使派遣の取り組み  
派遣カンパと今後の取り組み
- 5 辺野古新基地建設反対の取り組み  
支援カンパの実施
- 6 議長退任と新議長選出
- 7 次回幹事会

12月4日（木） 16:00～

## 辺野古新基地建設反対闘争に

参加して

副議長

関 久

昨年 12 月に仲井真弘多沖縄県知事は、自らの公約「普天間代替基地の県外移設」を反故にして、辺野古新基地建設を容認しました。沖縄の振興費として今後 8 年間にわたり 3 千億円以上を出すこと。普天間基地の運用停止を 5 年以内、オスプレイ 24 機の半数を県外移転にすることなどで政府と約束したと表明し、県民から裏切り者、辞職しろと怒りの声が上がりました。安倍政権は 11 月 16 日の沖縄県知事選前に工事着工・進捗を既成事実化しようと警察・海上保安庁の警備艇と要員を大量に導入して、工事を強行し、8 月 18 日午前に辺野古のキャンプ・シュワブ沿岸部に設置したスパット台船で掘削調査を強行しました。それ以後、過剰警備の中、反対派の市民や労働者・学生などが連日にわたって、海上阻止行動、陸上ゲート前抗議活動を続けています。8 月 23 日にはキャンプ・シュワブ第 1 ゲート前に 3600 人が集まり、抗議集会が行われました。政府・防衛省は 5 年以内の閉鎖は不可能と言い、仲井真知事と政府のペテンを露わにしています。

このような緊迫した中で、9 月 7 日の名護市市議員選挙が行われました。今年 1 月に再選



された稲嶺進名護市長の「海にも陸にも新基地はいらない」を合言葉に、与党多数派を形成できる

かどうか問われました。政府・自民党・推進派は野党の過半数を狙い、与党議員の落選を試み多数の新人を立候補させました。稲嶺与党派が 14 人、推進派 11 人、公明党 2 人の結果となり、民意は基地建設反対を死守しました。

次の焦点は知事選です。11 月 16 日が投開票日です。知事候補には仲井真弘多（容認派）、

翁長雄志（反対派）、下地幹朗（旧そうぞう代表＋維新の会）等の予定です。名護市長選で敗北した自民党は、「最大の関心は沖縄県が埋め立てを承認するかどうかだった。知事が承認して粛々と工事しており、もう過去の問題だ。争点にはならない」と菅義偉官房長官が記者会見で述べ、県民の民意を諮る知事選の結果は無視するとの独裁・恐慌政治を進めようとしています。絶対にこのような策動を許すわけにはいきません。米ジョンソン政権時代に沖縄返還に関する米政府の交渉担当者を務め、クリントン元大統領の特別補佐官など歴任したモートン・ハルペリン氏は「沖縄が計画を拒否すれば、他の解決策を探す必要が出てくる。知事選に言及して、移設の行方に影響を与えるだろう」と述べています。最近の県民世論調査では新基地建設



反対が 80 % を占めました。沖縄知事選は、オール沖縄が勝利するか否か、政府と激突する状況になっています。

私たちも新基地建設反対、県知事選勝利のために頑張りましょう。「10・17 戦争への道をゆるさない東京集会」を成功させましょう。

### 米軍辺野古新基地建設反対 活動支援カンパ

#### カンパ集約と送付について

沖縄平和運動センターに全額送金します。

#### ※カンパ使途の具体例

（沖縄平和運動センターの意思を尊重）

市民平和監視船（仮称）、街宣車の購入等

#### カンパ送付先

フォーラム平和・人権・環境

中央労働金庫本店営業部

普通 6 1 3 1 2 2 9

カンパ締切日 2014 年 11 月 10 日

## 被爆 69 周年原水禁世界大会開催

### フクシマ～ヒロシマ～ナガサキをつなぐ

「戦争を、被爆の実相を忘れず、  
人類が生き残るために立ち上がろう」

#### 福島大会

福島県だけでも、未だに 13 万人におよぶ人々が、故郷を奪われ先の見えない避難生活を余儀なくされています。政府や東電は、重大事故を起こした責任を認め、心から謝罪し、被災者に対する正当な賠償や援護施策を果たすべきです。被災者の生活は困難を極め、心労や病氣、言われなき差別など精神的・肉体的に追い込まれ、「震災関連死」は 1700 人を超え直接死を上回ることとなっています。また、事故原発では、多くの労働者が通常運転時とは桁違いの被曝を強いられています。そのほとんどが下請け労働者です。

ヒロシマ・ナガサキから 69 年。ヒロシマ、ナガサキ、ビキニ、JCO と続いた核被害の歴史にフクシマが加わりました。事故の現実を無視した「福島の復興」はありえません。フクシマ支援を抜きにした脱原発もありません。「第二、第三のフクシマ」を許さず、フクシマを核時代の終わりにしましょう。

(福島大会アピールより一部抜粋)

#### 広島大会

被爆 69 周年  
原水爆禁止世  
界大会・広島大  
会は、今年も  
「折り鶴平和  
行進」から始ま



りました。平和公園資料館前に集まった全国ながからの参加者約 2000 人は、時折、激しい風雨の中、シュプレヒコールをあげ行進しました。夕方から広島県立体育館で開かれた開会総会には 3300 人が参加。犠牲者への黙とう後、

主催者あいさつに立った川野浩一・大会実行委員長（原水禁議長）は「あの日から 69 年、被爆者は高齢化しており、継承が重要になっている。被爆者はこれ以上の犠牲者が出ないように祈ってきた。しかし、3 年半前に福島原発事故がおき、新たな被害者が出た。それにも関わらず、安倍内閣は原発再稼働を進めている。また、集団的自衛権の行使容認で戦争のできる国にしようとしている。私たちは人類の未来のために、がんばらなくてはならない」と訴えました。



#### 長崎大会

大会基調の提案を、藤本泰成・大会事務局長が行い、「来年は被爆から 70 周年、原水禁が結成されたから 50 周年、そして核不拡散条約（NPT）再検討会議も開かれる年だ。それに向けて運動をさらに強化しよう」と訴え、鹿児島島の川内原発などの再稼働の阻止や、ヒバクシャの権利獲得に向けた課題などを訴えました。

長崎の高校生の運動から始まった「高校生平和大使」と「高校生 1

万人署名活動実行委員会」の代表 60 人余りが登壇し、8 月 17 日からの国連欧州本部訪問などの抱負を語り、また、運動の継承への決意も表明されました。



長崎大会最終日東京平和運動センターは長崎市内浦上の江平町公民館一角の慰霊碑に献花をささげる。

# 三多摩ヒロシマ子ども

## 派遣団に参加して

団 長 石 野 一

(三多摩平和運動センター副議長)

今年で33回目となる三多摩ヒロシマ子ども派遣団に小学生10名、中学生7名が参加をしました。派遣団員は現地に向かう事前の学習会を行い、7月29日の丸木美術館と埼玉県平和資料館における学習では戦争の悲惨さや原爆の恐ろしさを痛感したようです。8月1日には結団式を行い‘団結ガンバロー’で意思統一をはかりました。

初日の8月4日。東京駅には原爆が投下されて69年目を迎えるヒロシマの地で‘平和と命の尊さ’を学ぶ派遣団員が大きな荷物と行動に胸を膨らませ全員が集合しました。広島に着き宿泊ホテルにチェックイン、三日間の行動を再確認して、広島駅から広電（路面電車が初めての団員は物珍しそうに乗車）で平和記念資料館に向かいました。ここに来ると1945年（昭和20年）8月6日午前8時15分に広島で何が起きたのか！？一目瞭然。展示されている遺品や写真などは子どもたちの目にどのように映り、どんな思いを感じたのだろうか？

二日目の8月5日。各地から訪れた子どもたちと共に原爆供養塔で行われた‘子ども慰霊祭’に参加。全員で黙祷、各団の代表が献花と哀悼のこころを捧げました。その後、平和記念公園内を巡るフィールドワークでは団員が熱心にメモをとっていたのが印象的でした。午後は広島グリーンアリーナでの子ども広場‘メッセージ from ヒロシマ 2014’に参加。このイベントは地元の高校生を中心とした実行委員会が主体となり、平和への願いを各地から参加した仲間たちが自ら参加し、歌あり、ダンスあり、最後に平和のメッセージを全世界へ発信しました。ここでの学習・交流は団員たちにとって思い出に残る機会になったことでしょう。灯籠づくりでは死者の魂を吊って灯籠を川



に流すことを知り、これまで学んだこと、見たことを言葉や絵にして、それぞれの思いを描いていました。夕食後‘被爆体験談を聞く会’が行われ、当時14歳（中学生）であった江田島出身の下畠準三さんから被爆した時（日）の様子を聞き、団員全員が真剣に耳を傾けていました。

三日目の8月6日。原爆投下の日。朝からの雨は国民の怒りと戦争で尊い命を失った約320万人の無念の涙ではないのか！原爆ドーム前での‘ダイ・イン’は黙とうに切り替え、最終学習である安野発電所へバスで向かう。この発電所は360人の中国人を強制連行し、4ヵ所の収容所に分け、長さ8kmの導線トンネルを掘る作業をさせ、粗末で少ない食べ物、牛馬以下の厳しい労働で多くの中国人はケガや病気にかかり、29人が死亡するといった状況下で建設されたことを知った団員たちは、戦時下での人間としての尊厳、命の尊さを学ぶことができたのではないのでしょうか。その日の夜、団員たちは元安川に平和を祈り、思い思いに作った灯籠を流し、派遣団一行は寝台特急サンライズ瀬戸・出雲号で帰路へ。

私は日常あまり子どもたちと生活を共にすることはなく、戸惑いながらの行動でしたが、この三多摩子ども派遣団にお母さんがかつて参加したという団員がいたことに33回目という歴史ある行動に感銘し、私も父（石野昇）と親子二代で団長を務めさせて頂いたことを感謝しています。そして、無事に団長の任を終えることができたのも、献身的に派遣団行動をまとめて下さった指導員の皆さんのおかげと感謝いたします。

## 活動日誌

- 07.27 被爆 69 周年原水禁世界大会福島大会  
(福島市)
- 07.29 戦争をさせない三多摩 1000 人委員会  
結成総会 (18:30 立川アイムホール)
- 07.31 戦争をさせない 1000 人委員会院内集  
会・抗議行動 (18:30～全電通会館)
- 08.04～06 被爆 69 周年原水禁世界大会広島大会  
(広島市)
- 08.07～09 被爆 69 周年原水禁世界大会長崎大会  
(長崎市)
- 08.09 平和の灯をヤスクニの闇へキャンドル  
行動 (韓国 YMCA)
- 08.15 戦争犠牲者追悼・平和を誓う集会  
(11:55～千鳥ヶ淵戦没者墓苑)
- 08.30～05 辺野古新基地建設反対現地激励
- 09.01 関東大震災朝鮮人虐殺追悼式典

〈横網町公園朝鮮  
人犠牲者追悼碑  
前で式辞を述べ  
る桐田事務局長〉



- 09.04 戦争させない・9 条壊すな総がかり行動
- 09.05～06 平和フォーラム全国責任者会議
- 09.06 全国基地ネット総会
- 09.17 狭山東京実行委員会幹事会
- 09.17 東京平和運動センター常任幹事会
- 09.17 戦争をさせない東京 1000 人委員会  
幹事会
- 09.20 辺野古に基地を造らせない 東京から  
声をあげよう集会 (宮下公園)
- 09.23 さようなら原発大集会 (亀戸中央公園)



## 今後の日程

- 09.28 JCO 臨界事故 14 周年集会  
(13:00～茨城・東海村)
- 09.28 「国連・人権勧告の実現を！」集会  
(13:30～東京・芝公園)
- 10.08 日弁連・集团的自衛権行使に反対する集  
会&パレード (18:00～日比谷野音)
- 10.17 戦争をゆるさない東京集会  
(18:30 日比谷公会堂)
- 10.21 オスプレイの横田基地飛来阻止・訓練  
阻止！基地の整理縮小を求める  
三多摩集会 (18:30 福生公園)
- 10.24 戦争をさせないコンサート  
(日比谷野外音楽堂)
- 10.24 部落解放・人権政策確立要求中央集会  
(13:00～憲政記念館)
- 10.31 狭山事件の再審を求める市民集会  
(13:00～日比谷野外音楽堂)
- 11.01～03 憲法理念の実現をめざす第 51 回大  
会 (護憲大会、岐阜市)
- 11.11 戦争させない・9 条壊すな総がかり行動  
(国会包囲行動)
- 11.28～29 第 46 回食とみどり、水を守る全国  
集会 (日本教育会館)
- 12.04 狭山東京実行委員会
- 12.04 東京平和運動センター常任幹事会
- 12.06 もんじゅを廃炉に！全国集会  
(福井・敦賀市)

### 10.17 戦争をゆるさない東京集会に

#### 総結集しよう

日時 10 月 17 日 (金) 18:30～  
場所 日比谷公会堂  
講演 集团的自衛権行使容認  
閣議決定と沖縄  
前泊 博盛さん  
(沖縄国際大学教授・  
元琉球新報論説委員長)

主催 戦争をさせない東京 1000 人委員会

集団的自衛権行使容認閣議決定撤回！  
「戦争のできる国」法整備阻止！

10・17  
戦争への道を  
ゆるさない  
東京集会

10月17日 金 18時開場 18時半開会  
日比谷公会堂 (東京・日比谷公園内)

講演：集団的自衛権行使容認閣議決定撤廃と沖縄

講師：前泊博盛 (沖縄国際大学教授・元琉球新報論説委員長)

主催：戦争をさせない東京1000人委員会

(連絡先)：戦争をさせない東京1000人委員会 TEL: 03-5443-4110

# 集団的自衛権行使容認閣議決定撤回!

## 「戦争のできる国」法整備阻止!

# 10・17 戦争への道をゆるさない東京集会

安倍政権は、私たちと日本を、いったいどこに連れて行こうとしているのでしょうか?

特定秘密保護法の強行制定、国家安全保障会議設置、武器輸出3原則廃止……。

そして、7月1日には「米軍を守るため」の自衛隊の武力行使=戦闘を認める「集団的自衛権の行使容認」閣議決定を強行しました。そして、行使容認を法律で裏付ける個別法の改正を目論んでいます。

どれもこれも、日本を〈戦争ができる国〉に作り変え、わたしたちを〈戦争への道〉に引きずり込むための〈平和憲法破壊工作〉です。

私たち一人ひとりの意志を無視して〈戦争への参加〉を決定することは、立憲主義を否定し、民主主義国家の存立そのものを脅かす暴挙です。

この間、安倍政権は、単に憲法の破壊だけではなく、人権の破壊、生活の破壊を行ってきました。沖縄戦の後、米軍統治下、本土復帰後も米軍基地被害に苦しんできた沖縄県民の頭上に、危険なオスプレイを飛ばし、「辺野古新基地」建設を強行しようとしています。福島第一原発事故で仕事も住まいも奪われた被曝者を、今なお放射線量が高い地域に「帰還」させ、再被曝させようとしています。原発の再稼働が住民の安全・安心より優先されようとしています。

首相の言う、「国民の生命と財産を守る」ために、これからどれだけの人々が傷つき、犠牲となることを強制されるのでしょうか。誰かに犠牲を押しつける社会を、もう私たちは許してはなりません。いまこそ憲法の理念を、それを弄ぶ権力者から、私たち自身の手に取り戻さなくてはならないのです。

憲法破壊、戦争への道に「待った」をかけられるのは私たちです。安倍政権の企む〈壊憲〉に「そんなことは絶対許さない」と闘争宣言しよう。そして「10・17集会」に結集し、戦争への道を許さない闘いを職場・地域から展開しましょう!



### 前泊博盛 (まえどまり ひろもり) 氏プロフィール

1960年、宮古島市生まれ、明治大学大学院修了。

84年、琉球新報社入社後、社会部、政経部等記者を経て、編集委員、論説委員長となる。

2011年から沖縄国際大学経済学部教授。基地・軍事経済が与える地域経済への影響、経済安全保障、島嶼の経済・産業発展政策などを研究分野とする。

著書に『もっと知りたい! 本当の沖縄』(岩波書店)、『沖縄と米軍基地』(角川新書)、

『本当は憲法より大切な「日米地位協定入門」』(創元社)などがある。

10月17日 金 18時開場 18時半開会

日比谷公会堂 (東京・日比谷公園内)

主催: 戦争をさせない東京1000人委員会

(連絡先): 戦争をさせない東京1000人委員会 TEL: 03-5443-4110

